



目次

目次	2
1. 自動化.....	3
2. 自動化レベル.....	4
3. バッチ通知.....	6
4. スケジュールしたエクスポート	8
5. エクスポートの失敗処理	10

自動化

Umango が処理対象のドキュメントを受け取った後、Umango が自動的に処理を実行するように設定することも、処理を実行するためにユーザーの介入を必要とするように設定することもできます。Umango 処理を自動化するために設定できる構成がいくつかあります。

1. 自動化レベル: ユーザー介入をオンまたはオフにするための設定、および処理中にユーザー介入が必要になるタイミング。
2. バッチ通知: 処理でユーザの介入が必要な場合、ユーザは Umango サービスから電子メール メッセージを受信できます。
3. スケジュールしたエクスポート: Umango は、選択したスケジュールに基づいてプロセス結果のエクスポートを遅らせることができます。
4. エクスポートの失敗処理: エクスポート処理中に問題が発生した場合、umango はエクスポート処理を再試行できます。

自動化の構成は、処理の作成時またはインポート時に行うことができます。構成は後で変更できます。

1. 自動化レベル

ユーザー介入をオンまたはオフにするための設定、および処理中にユーザー介入が必要になるタイミング。ユーザーの介入をオフにすることができるので、処理は Umango によって完全に自動で実行されます。設定では 4 つの自動化レベルを設定できます。

自動化レベル

自動化設定は、バッチ処理時のユーザが修正レベルを設定することができます。

a ユーザの介入なしでバッチを処理する
b 処理ルールが成功した場合、バッチをエクスポートする
c 「ゾーン」が検証失敗した場合、ユーザが修正する
d 「ゾーン」の信頼度がトリガーしきい値を下回っている場合、ドキュメントを手動で処理します。

トリガーのしきい値

手動検証トリガーのしきい値

「ゾーン」のしきい値を使用する 処理のしきい値を使用する

自動化レベルのオプション

a. ユーザの介入なしでバッチを処理する

ユーザー介入を有効または無効にするオプション。

「チェックされている場合」、Umango はユーザーの介入なしにすべての処理(情報の取得とドキュメントのエクスポート)を自動的に実行します。

ユーザーの介入は、処理中にエラーが発生した場合にのみ表示されます。

「チェックされていない場合」、情報取得プロセス中に、ユーザーは取得する情報を手動で選択し、エクスポート プロセスを手動で開始できます。

b. 処理ルールが成功した場合、バッチをエクスポートする

情報取得後の自動エクスポートドキュメントを有効または無効にするオプション。

「チェックされている場合」、ドキュメントの情報取得が完了した後、ドキュメントが自動的にエクスポートされます。

「チェックされていない場合」、Umango は情報収集処理のみを実行し、エクスポート処理はユーザーの介入後に実行されます。

c. 「ゾーン」が検証失敗した場合、ユーザが修正する

ゾーンから取得した情報の検証を有効または無効にするオプション。ゾーン構成の詳細については、ゾーン設定ドキュメントを参照してください。

「チェックされている場合」、情報の検証が失敗した場合、処理にはユーザーの介入が必要になります。

「チェックされていない場合」、情報収集中に検証に失敗しても、処理は続行されます。

d. 「ゾーン」の信頼度がトリガーしきい値を下回っている場合、ドキュメントを手動で処理します。

ゾーンから取得した情報の正確性の検証を有効または無効にするオプション。ゾーン構成の詳細については、ゾーン設定ドキュメントを参照してください。

「チェックされている場合」、取得した情報の精度がしきい値を下回る場合、処理にユーザーの介入が必要になります。

「チェックされていない場合」、取得した情報の精度が閾値を下回っていても処理は続行されます。

2. バッチ通知

Umango プロセス中にエラーが発生した場合に電子メール通知の送信を有効にするオプション。エラーアラートを受信するためのメールアカウントを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 処理構成で、「自動化」タブをクリックしてください。

The screenshot shows the 'Automation' tab selected in the top navigation bar. The page is divided into several sections:

- 自動化レベル**: Describes automated settings for batch processing.
- トリガーのしきい値**: Settings for trigger thresholds.
- バッチ通知**: Describes email notifications for batches.
- スケジュールしたエクスポート**: Describes scheduled exports.
- エクスポートの失敗処理**: Describes failure handling for exports.

Checkboxes in the 'Batch Level' section are checked:

- ユーザの介入なしでバッチを処理する
- 処理ルールが成功した場合、バッチをエクスポートする
- 「ゾーン」が検証失敗した場合、ユーザが修正する
- 「ゾーン」の信頗度がトリガーしきい値を下回っている場合、ドキュメントを手動で処理します。

Checkboxes in the 'Batch Notification' section are checked:

- 通知メールを有効にする

Checkboxes in the 'Export Failure Processing' section are checked:

- スケジュールされたバッチエクスポートを有効にする

自動化構成へのアクセス

2. 通知メールを有効にするオプションを「チェック」してください。

この機能を有効にしたくない場合は、オプションのチェックを外したままにし、次の手順に進む必要はありません。

The screenshot shows the 'Automation' tab selected in the top navigation bar. The 'Batch Notification' checkbox in the 'Batch Notification' section is highlighted with a red rectangle.

The 'Batch Notification' section contains the following text:

バッチでユーザの介入が必要な場合、ユーザは Umango サービスから電子メール メッセージを受信できます。

□ 通知メールを有効にする

電子メール通知の有効化

3. アラート通知のメールの件名を入力してください。

メールの件名

Umango Batch Alert

空の場合、デフォルトの件名が使用されます



メール件名の設定

4. アラートの受信者を入力してください。受信者が複数の場合は、電子メールを読点で区切ってください。

受信者のメールアドレス

test@gmail.com, test2@yahoo.com, test3@cosy.com



複数のメールアドレスをカンマで区切って入力してください

メール受信者の設定

5. 送信者のメールアドレスと、メールサーバーから取得した SMTP 構成を入力してください。

送信者のメール

SMTP サーバー

ポート

Sender email address

SMTP サーバー名

ユーザ名

パスワード

SSL が有効

SMTP認証のユーザ名

SMTP認証のパスワード

送信者と SMTP 構成の設定

3. スケジュールしたエクスポート

Umango の処理は、処理されたドキュメントを毎日特定の時間にエクスポートするように構成できます。この機能は、ピーク時にサーバーの CPU またはアップロード帯域幅の消費を管理する必要がある場合に役立ちます。スケジュールしたエクスポートを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 処理構成で、「自動化」タブをクリックしてください。

The screenshot shows the 'Automation' tab selected in the top navigation bar. The page is divided into several sections:

- 自動化レベル**:
自動化設定は、バッチ処理時のユーザが修正レベルを設定することができます。
 ユーザの介入なしでバッチを処理する
 処理ルールが成功した場合、バッチをエクスポートする
 「ゾーン」が検証失敗した場合、ユーザが修正する
 「ゾーン」の信頼度がトリガーしきい値を下回っている場合、ドキュメントを手動で処理します。
- トリガーのしきい値**:
手動検証トリガーのしきい値
 「ゾーン」のしきい値を使用する 処理のしきい値を使用する
- スケジュールしたエクスポート**:
バッチは、毎日指定した時間にエクスポートするように設定できます。これは、サーバのCPUパワーまたはアップロード帯域幅の消費がピーク時の影響を受ける場合に役立ちます。
 スケジュールされたバッチエクスポートを有効にする
- バッチ通知**:
バッチでユーザの介入が必要な場合、ユーザは Umango サービスから電子メール メッセージを受信できます。
 通知メールを有効にする
- エクスポートの失敗処理**:
割り当てられた宛先へのエクスポートに失敗したバッチは、再試行するようにスケジュールできます。
 エクスポート失敗後に再試行

自動化構成へのアクセス

2. スケジュールされたバッチエクスポートを有効にするオプションを「チェック」してください。

この機能を有効にしたくない場合は、オプションのチェックを外したままにし、次の手順に進む必要はありません。

The screenshot shows the 'Automation' tab selected in the top navigation bar. The 'Schedule Export' checkbox is highlighted with a red border.

スケジュールしたエクスポートの有効化

3. 処理されたドキュメントをエクスポートする時間を設定してください。

スケジュールしたエクスポート

バッチは、毎日指定した時間にエクスポートするように設定できます。これは、サーバのCPUパワーまたはアップロード帯域幅の消費がピーク時の影響を受ける場合に役立ちます。

スケジュールされたバッチエクスポートを有効にする

スケジュール

次の時間後にエクスポートします。

14:00



エクスポート時間の設定

4. エクスポートの失敗処理

Umango には、エクスポート処理中にエラー（ネットワーク、資格情報、またはその他の理由）が発生した場合に、エクスポート処理を自動的に再試行する構成があります。エクスポートの失敗処理を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 処理構成で、「自動化」タブをクリックしてください。

The screenshot shows the 'Automation' tab selected in the top navigation bar. The page is divided into several sections:

- 自動化レベル**: Describes how Umango can correct errors during export processing.
- スケジュールしたエクスポート**: Allows setting a schedule for exports.
- トリガーのしきい値**: Settings for triggering automation based on specific values.
- バッチ通知**: Information about notifications sent to users via email.
- エクスポートの失敗処理**: The main section for configuring export failure handling.

In the 'エクスポートの失敗処理' section, the checkbox for 'エクスポート失敗後に再試行' (Retry after export failure) is checked.

自動化構成へのアクセス

2. エクスポートの失敗処理を有効にするオプションを「チェック」してください。

この機能を有効にしたくない場合は、オプションのチェックを外したままにし、次の手順に進む必要はありません。

The screenshot shows the 'Automation' tab selected in the top navigation bar. The 'エクスポートの失敗処理' section is highlighted with a red box around its checkbox.

エクスポートの失敗処理の有効化

3. Umango が処理を再試行する間隔(分単位)を入力してください。

エクスポートの失敗処理
割り当てられた宛先へのエクスポートに失敗したバッチは、再試行するようにスケジュールできます

エクスポート失敗後に再試行

失敗のオプション

次の試行までの分数	5
あきらめるまでの試行回数	3

再試行の間隔

4. Umango が処理を諦める前に何回再試行するかを入力してください。

エクスポートの失敗処理
割り当てられた宛先へのエクスポートに失敗したバッチは、再試行するようにスケジュールできます

エクスポート失敗後に再試行

失敗のオプション

次の試行までの分数	5
あきらめるまでの試行回数	3

再試行の最大値